

(別添)

令和5年度「ちばっ子の学び変革」推進事業（「学力・学習状況」検証事業）研究状況報告書
鎌ケ谷市立五本松小学校

1 学校紹介

学級数 23学級 通常学級 19学級 情緒・知的特別支援学級 4学級

児童数 573名

本校は、鎌ケ谷市の北東部(鎌ケ谷小学区、初富小学区、北部小学区の間)に位置している。近年、人口の流入が激しく住宅が密集し都市化の傾向が進んでいる。新鎌ケ谷駅周辺の開発が進み、県道のバイパスが学校の脇を通っている。また、東京やその周辺に勤める家庭も多く、教育に対する保護者の関心も高い。そのため、習い事に通っている児童の割合も多い。

通学路の安全パトロール、学校図書館運営のためのボランティア活動による学校支援、低学年児童と中央東地区社会福祉協議会との昔遊び交流会を実施するなど、地域との活動も盛んに行われている。

2 研究主題

「自分の思いや考えを表現できる児童の育成」 ～書く取り組みをとおして～

3 研究の概要

(1) 児童の実態と課題

本校では、令和3年度より国語科「書くこと」に焦点を当て、自分の思いや考えを文章に表現できる児童の育成を目指し、研究を進めてきた。6年生を対象とした令和3年度と令和4年度の全国学力・学習状況調査についての結果分析を校内で実施した結果は、以下に述べる。

○複数の情報を関連付けた文章が書けるようになることや、あきらめずに最後まで取り組める児童を育成するための授業改善や工夫が必要。

○全国の平均正答率と比べると、本校の学力は国語、算数ともに高い水準であるが、自分の力で問題を解釈し答えを導き出すことが難しい児童も少なからずいる。

また、2～5年生を対象に標準学力調査を実施した結果分析の課題は以下のとおりである。

○漢字や語彙、言葉のきまりが定着していない。

○指定された字数や行数、条件で文章を書くことに慣れていない。

○文章を書く問題では、無解答率が高い。

○他者の考えを聞いて、自分の考えを広めたり深めたりすることの定着率が低い。

(2) 学力向上のための取組

【教職員側の取組】

- ・理論研修を実施(5月)「全国学力・学習状況調査」の分析を行い、児童の実態と課題を共有した。
- ・研究全体会を実施(6月)児童の国語に対する課題、目指す児童像を決定した。
- ・校内研究(年3回)では、協議会で話し合う観点を絞り、効率的かつ円滑的に協議できるようにした。

【児童】

- ・毎週木曜日の朝学習で、語彙力、文章力向上のためのプリントやドリル学習を実施した。
- ・単元の学習計画を作成し、学習の見通しをもって学習活動ができるように工夫した。(図1)
- ・学習中に振り返りの時間を設け、次時の授業への意欲や見通しをもたせるようにした。(図2)
- ・学習ごとの学年掲示板上に言葉の掲示物などを貼り、身近に言葉に接する機会を設けた。(図3)
- ・つまづいている児童には、ヒントカードなどを渡し、困り感が無くなるようにした。
- ・ICTを活用した授業を行い、児童の思考表現の幅が広がるようにアプリケーションやツールを活用した。



(3) 加配教員（学習サポーターを含む）の活用

加配教員は、1時間の学習で国語学習を苦手と感じている児童を把握した上で、適切な学習支援を実施した。また、出来上がった作文の添削、言葉の扱い方や間違いの多い作文の技法を集約し、今後の授業に生かせるよう、指導方法を担任と共有することで、次時の授業が円滑に行えるようにした。

学習サポーターは、支援が必要な児童への声かけやサポート（図4）、作文等で使用する掲示物の作成を行った。「書くこと」の学習では、構成メモが完成し作文用紙に文字を起こす際、すぐ書き始められるグループと、前時の続きから始める指導が必要なグループに分かれ、指導する児童を分担し、習熟度別の学習を行った。



(図4) 1年生「のりものカードでしらせよう」
学習サポーター

4 成果

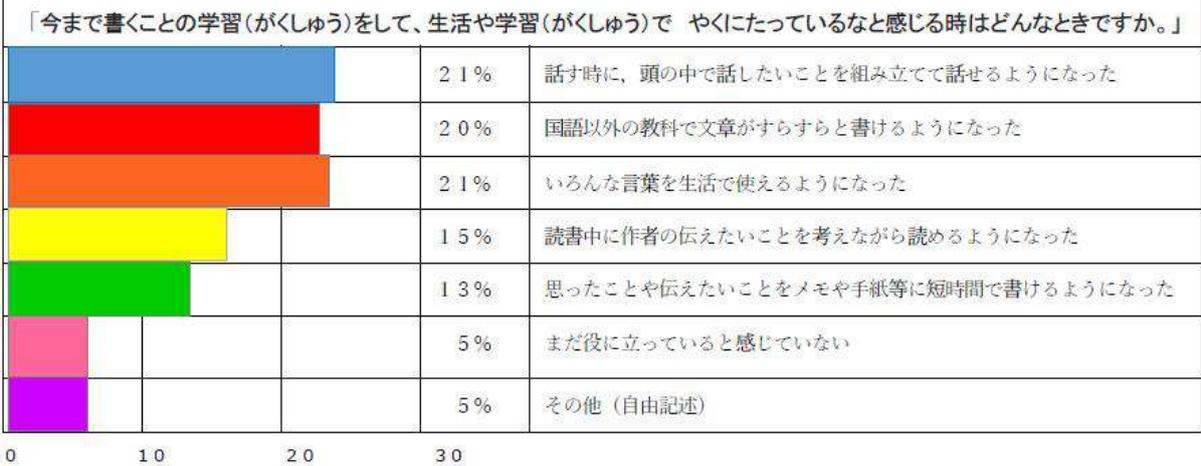
【教職員側の取組】

- 年度のはじめに、本校の国語科の学力の実態についての理論研修や研究全体会を開催したことで、共通認識ができ、児童に身に付けさせたい力などの目標や指導の方向性が定まった。
- 校内研究の中で、参観の視点を1、2個に絞ることで協議会中の話合いが活発になった。
- 学習指導案検討から、鎌ヶ谷市教育委員会担当指導主事に御指導をいただき、指導に対する不安や悩みについて御助言をいただけたことで、指導の幅が広がった。
- 児童の興味が持続するように教材の工夫ができ、校内研究をとおして他学年の教職員がその工夫を共有できるよい機会になった。

【児童】 図5 〈本研究に関するアンケート結果(全学年児童)〉

令和5年6月 実施	質問内容	令和5年度12月 実施
	国語の学習は、好きですか？ ● A.好きです ● B.どちらかというと好きです ● C.どちらかというとにがてです ● D.にがてです	
	自分の考えを文に書くことはとくいですか。 ● A.好きです ● B.どちらかというと好きです ● C.どちらかというとにがてです ● D.にがてです	
	出来事や自分の考えたことをあのね帳などに書くことができますか。 ● A.かけます ● B.どちらかというとかけます ● C.どちらかというとかけません ● D.かけません	

図6 令和5年12月実施



○学習計画を作成したことで職員の進め方が明確になったため、児童が目的意識をもって取り組めるようになり、意欲的に学習することができた。

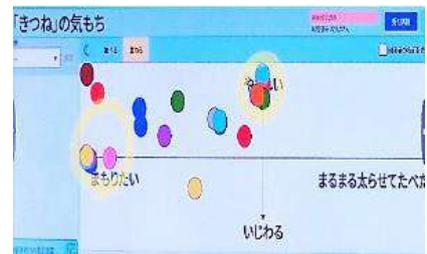
○学習の目的を明確にするだけでなく、相手(誰に読んでほしいのか、誰から感想がほしいのか)意識をもって学習に取り組むことで、意欲を継続させて活動することができた。

○学習中に振り返りの時間を設けることで、次時の学習への見通しをもつことができていた。

○単元の中で並行読書を行うなど、学校図書館の活用を全学年で取り入れたことで、読書活動を継続的に進める環境が整い、児童の学習表現の幅が広がった。

○学習でつまづいている児童支援については、ヒントカードや助言を通して支援を行うことができたが、困り感の度合いに合わせた個別最適化の学びには至っていない。

○語彙を増やすために類語辞典を蔵書したり、ことわざかるたを増やしたりして言葉に触れるきっかけづくりができた。



(図7) 2年生「きつねのおきやくさま」ポジショニング

○「SKYMENU Cloud」のポジショニング機能や「Canva」、「Google Jamboard」などのICT活用の授業を行ったことで、色彩を加えたり言語の比較・移動など言葉の表現方法を工夫したりして、児童の思考表現の幅を広げることができた(図7)。

5 今後の課題

●アンケート結果から、「書く活動の学習をして生活の中でまだ役にたっていると感じていない」児童が、予想より多くいるため、実感できる機会を設けたり、振り返りの中に実感できたかを問う項目を入れたりするなどの意識付けが必要と感じた。そして、職員側が児童一人一人の学習評価をしっかり行い、よりよい指導ができるように学習指導を継続することが必要である。

●漢字、修飾語などの「言葉のきまりの定着」については、校内全体で週1回ほど朝学習を活用し、新しく学んだ言葉が学年を超えても繰り返し学習できるように、職員間で周知し指導する必要がある。

●作文については、文字数や指定された条件を使って文章を書く活動を朝学習や授業で習慣化させていきたい。あのね帳(日記帳)や作文帳への定期的な書き取りをすることで、苦手意識を軽減していく。

●「他者の考えを聞いて、自分の考えを広めたり深めたりすること」について、自分とは異なる意見を否定せず受け入れ、さらに自分の考えを再構築できるよう、学習活動を工夫する必要がある。